

読書活動事例集

2 0 1 5

事例集目次

【生まれる前・乳幼児期の取組事例】

出産を迎える方のための読み聞かせ講習会	3
～荒川区立図書館の取組～	

【小学生の取組事例】

羽ばたけ！「子ども読書リーダー（子ども司書）」	4
～世田谷区立図書館の「子ども司書講座」の取組～	

おはなし会いろいろ！科学の本に多言語読み聞かせ	6
～東久留米市立中央図書館の取組～	

図書館機能を一本化	8
～大田区立池上第二小学校 学校図書館リニューアル事例～	

【中・高校生等の取組事例】

生徒が集まる図書館へ	11
～児童文学評論家赤木かん子氏プロデュース 板橋区立志村第二中学校 学校図書館リニューアル事例～	

ヤングアダルト向け情報紙『CATCH』	14
～西東京市図書館の中高生読書への取組～	

都立多摩図書館による高校生への絵本の読み聞かせ講座	15
～都立世田谷総合高等学校 家庭科 「子どもの発達と保育」選択授業での実施例～	

【特別な支援を必要とする児童・生徒の取組事例】

発達障害と読書_____17

～葛飾区立宝木塚小学校しょうぶ学級の取組～

発達障害の児童・生徒の読書活動の支援としての指導事例_____18

【島しょでの読書推進の取組事例】

島しょ初！子供読書活動推進計画策定_____20

～八丈町立図書館の取組～

【生まれる前・乳幼児期の取組事例】

出産を迎える方のための読み聞かせ講習会 ～荒川区立図書館の取組～

荒川区立図書館では平成18年度より、区内在住のこれから出産を迎える方とご家族を対象に読み聞かせ講習会を行っています。

外部講師を招き、図書館職員と一緒に、ブックスタートの必要性和意義や、絵本を通じた赤ちゃんとのコミュニケーションについてお話しし、絵本の読み聞かせやわらべうたの実演を行います。

赤ちゃんを待つプレママ期にゆったりとした気持ちで絵本を楽しみ、読み聞かせを通しての親子のふれあいを学ぶことは、家族の絆づくりにつながります。それはやがて子供が一人で読書するための大事な土壌づくりに役立っていきます。

参加者からは「絵本がお母さんと子供にとって大切なコミュニケーションであることを再認識しました。」「早く赤ちゃんに絵本を読んだりわらべうたを聞かせてあげたりしたいと思いました。」という感想が聞かれました。



赤ちゃんが生まれてからは「ブックスタート事業」として、保健所の協力により、4カ月健診等に図書館職員が出向いて、赤ちゃんと保護者を対象に、子供の読書についての話や読み聞かせの実演を行い、ブックリストを配布しています。

図書館職員が読み聞かせを実践してみせることにより、赤ちゃんへの読み聞かせのコツや楽しさを伝えるとともに、親子のふれあいや育児支援に役立っています。

【小学生の取組事例】

羽ばたけ！「子ども読書リーダー（子ども司書）」 ～世田谷区立図書館の「子ども司書講座」の取組～

世田谷区立図書館では、子供自身が読書を好きになり、読書の指導者となる「子ども読書リーダー（子ども司書）」の育成のため、夏季休業中、小学校高学年を対象として、調べ学習体験とおはなし会体験を2日に分けて行う「子ども読書リーダー（子ども司書）講座」を実施しています。

平成 27 年度は小学校 5 年生・6 年生、52 人が参加しました。

1 日目は開講式、好きな本の紹介を含めた自己紹介、図書館見学の後、調べ学習体験を行います。（中央図書館・砧図書館で実施）

調べ学習体験ではそれぞれ好きなテーマを決めて、図書館の本を使って調べ、思ったことや感じたこと、調べて分かったことを絵や図なども使いながら模造紙にまとめます。

全員がまとめ終わった後に、発表を行い、作成物をボードに貼って意見交換しました。



2日目は各地域図書館に分かれ、読み聞かせの体験を行います。

午前中は見学やクイズを通して図書館について学び、午後は絵本の読み聞かせについての講義を聴き、実技練習をします。その後、図書館または保育園に出かけ、実際に子供たちに読み聞かせを行う「おはなし会」を体験します。

最後に、修了式が行われ2日間参加した子供たちには修了証が渡されます。

子供達からは「いろいろな資料から情報を得ることの楽しさを知ることができた」「はじめて人の前で本を読み、拍手してもらえてうれしかった」といった感想がありました。



受講者にはさらに、講座修了後、近隣の図書館でおはなし会などの活動の他に、図書館司書の仕事や本について学ぶ機会も作っています。

【「子ども読書リーダー」のおはなし会】

毎月盛況で、年齢の近いお兄さんお姉さんの読み聞かせにより小さい子供たちが図書館への親しみを持てるようになっていきます。

【学校図書館での活動】

図書の分類や調べ方などの知識を学校図書館でも発揮し、周りの児童が本を探す時のサポートをしています。

小学生の時に「子ども読書リーダー講習」を受けた子供が中学校で図書委員になるなど、積極的に読み聞かせやブックトークなどに挑戦しています。

おはなし会いろいろ！科学の本に多言語読み聞かせ ～東久留米市立中央図書館の取組～

東久留米市立図書館は、昭和46年開館時の「婦人子ども図書館」の名が示すように、地域の子供たちの読書のために始まり、開館当初から児童サービスを重要な柱として活動してきました。

地域文庫との連携や図書館活動へのボランティア参加が盛んで、開館以来、乳幼児向け、幼児向け、小学生向けのおはなし会、季節のおはなし会、絵本展などを行い、図書館とボランティアが一体となって子供たちの読書活動の楽しさを広げています。

さらに新たな読書推進の事業として平成15年から科学の本の読み聞かせを開始し、継続して事業を行っています。児童向けの科学の本の読書を促進するとともに、実際に体験させることで本の知識の定着を図る新しい形の読書です。

また、平成24年からはストーリーフェスタとして多言語のおはなし会も行っています。

【よもう！あそぼう！かがくの本】

体験を取り入れた科学の絵本の読み聞かせ事業を行っています。

小学生向けに、本のテーマにあわせた実験・観察・工作等の体験を行った後、本の読み聞かせを行うほか、テーマに関連した本を展示しブックトークを行っています。

講師や助手と参加者、また参加者同士のコミュニケーションにより、科学や自然を発見し、本の読み聞かせにより、言葉を通して経験を知識や知恵に定着させることができるように組み立てています。また、読み聞かせのほか、関連資料の紹介と貸出を行うことでさらに興味を引出し、新たな学びのきっかけとなっています。

これまで、年に6回～7回実施しており、読み聞かせを行う本と体験や、関連資料等の検討をボランティアと共同で行っています。



科学の本の事業を行うことにより、図書館でも、科学の本への関心が広まり、本の評価や蔵書構成の見直しが行われ、科学の本の読書に対する良い環境が整備されました。また、市内の小学校で読み聞かせを行う保護者などのボランティアの間にも、科学に対する関心が高まりました。

現在、読むことだけではなく、発表する、理論的に考える、まとめるなどの、従来の文

学の読書にとどまらない領域の活動も重視されてきています。そうした活動へつながる基礎となればと考えています。そして、児童が楽しく参加していることが一番の効果です。

【ストーリーフェスタ 多言語のおはなし会（英・韓・中・日本語）】

年 1 回、図書館多文化サービス部門が市内の国際友好のボランティア団体と協力して、英語、韓国語、中国語、日本語のネイティブスピーカーによる絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びや外国語の絵本のブックトークを行っています。

市内にはインターナショナルスクールがあるほか、留学生や外国人も多く、国際友好のボランティア活動をする団体との連携により、ストーリーフェスタは外国語や他国の文化に触れる機会となっています。楽しみながら外国が身近に感じられるイベントとして参加者は毎回 80 人を超え、幼児から大人までが外国の言葉やリズム等の文化を楽しんでいます。

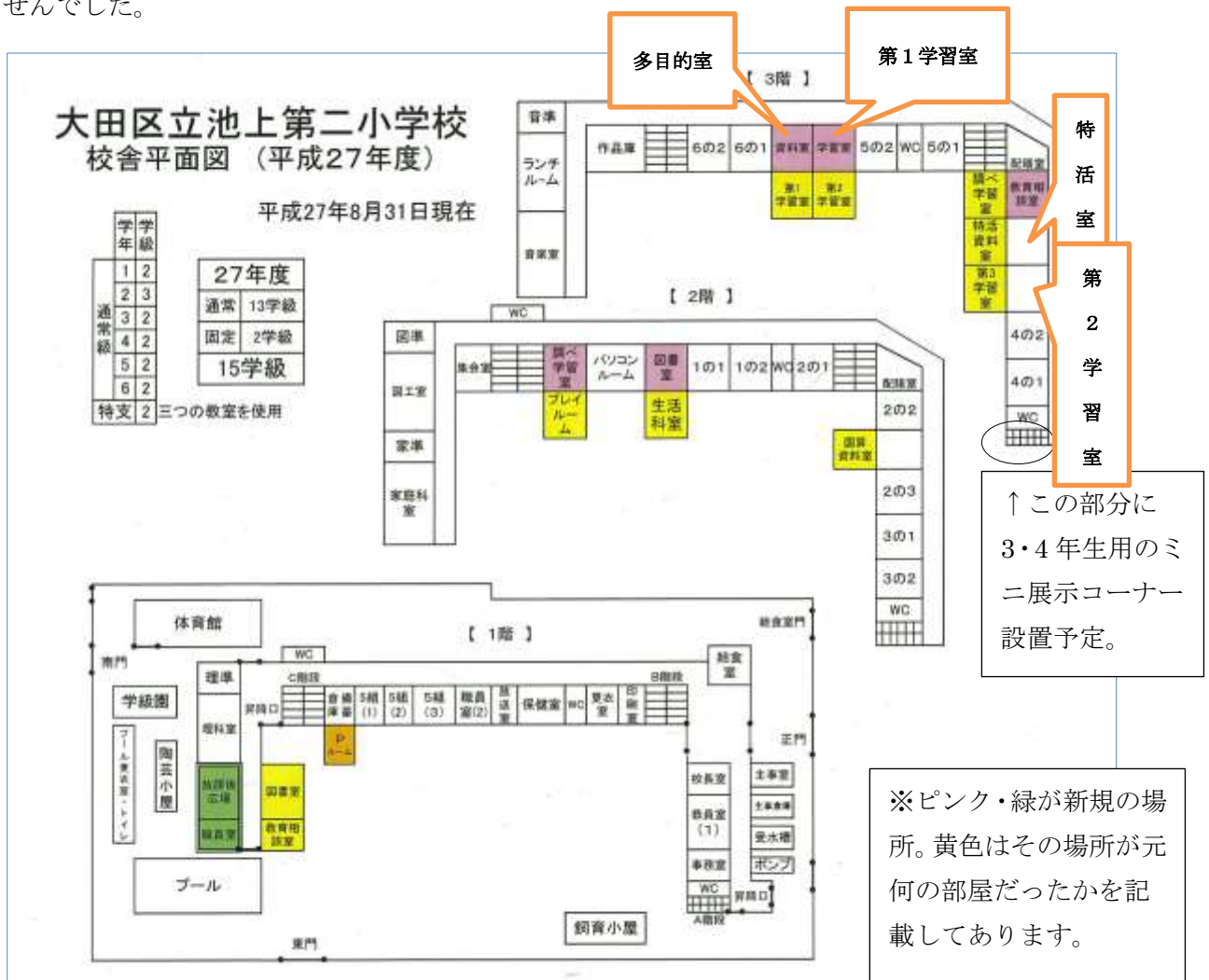


図書館機能を一本化 ～大田区立池上第二小学校 学校図書館リニューアル事例～

■リニューアル前の学校図書館の様子

大田区立池上第二小学校は校舎がコの字型となっており、従来の図書室は正門から入って1階の一番奥の位置で他の教室とも離れた場所にあり、主に絵本や文学の読み物の本が置いてありました。また、図鑑や辞典類、その他調べもののための本は3階の調べ学習室に置かれていて、一緒に使うのが難しい状況でした。このほか、パソコンは2階の中央部分にあるパソコンルームに置かれていました。

図書室は常時開館され、図書ボランティアの方々により飾りつけもされていましたが、児童たちの動線から外れており、また、調べものの本と読み物が離れたところにあったことから利用しやすい状況ではありませんでした。また、調べ学習室の本は貸出をしていませんでした。



■図書館移設の経緯・現状

校内に新たに「放課後子どもひろば」を設置するにあたり、場所についての条件が合致するスペースを確保するため既存の図書室を他の場所に移すこととなりました。

大田区では平成 27 年度、通常の学校支援サービスとは別に、学校図書館の利用促進、機能充実のために年間 70 時間、区立図書館が学校を支援する事業が行われています。今回の移設に際してはこの事業を活用し、大田区立池上図書館と一緒に学校図書館のリニューアルにあたっています。

移設に向けて、6 月から池上図書館に相談し、レイアウトなどを検討してもらうことができました。

さらに、これまでばらばらだった図書室と調べ学習室の機能を集約させることとしました。配線の都合などでパソコンルームを移設できなかったことから、絵本や物語中心の読み物がある図書室を「よみもののへや」、図鑑や辞書、その他物語以外の本が置かれる調べ学習室を「調べもののへや」と名付け、2 階のパソコンルームを中心に集めました。

具体的には 7 月から書架を設置するための壁の工事等と同時並行で書架の移動・本の移動などその他の作業も行い、9 月末までに図書館が使えるように整えました。



旧図書室



新図書室（よみもののへや）リニューアル途中

■新しい図書館の概要

「よみもののへや」は床に座ってゆっくり座れるスペースを作り、「調べもののへや」には図鑑や辞典を広げて書き物もしやすいように机や椅子を設置しました。同じフロアに「よみもののへや」「調べもののへや」「パソコンルーム」といった機能を集めることによって、一つのテーマについて本や雑誌・新聞・ネット情報など様々なアプローチがあることの紹介や、様々な分野の関連本への興味付けにもなると考えています。児童が読書を楽しみ、情報の収集・発信、主体的な学習ができるメディアセンターとして「学校図書館」の役割に期待しています。

これまで貸出ができていなかった調べものに使う本も、児童が使いやすいように、パソコンで貸出し処理ができるようにしました。

書架や本の配置については、専門である池上図書館学校担当司書に児童が本を探しやすい見やすいレイアウトを考えてもらいました。



調べ学習室（しらべもののへや）リニューアル途中

■協力体制

図書室と調べ学習室を合わせて学校図書館、更にパソコンルームを合わせて、3室一体のメディアセンターとしたいという校長、学校図書館担当教員の思いを 区立図書館がバックアップしてレイアウトや配置を考え具体化しました。

教員・主事だけではなく、6年生の児童も共に移設を行いました。また、図書ボランティアが以前の図書室から本を運び入れ、棚やカウンターを綺麗に磨き直し、配架を行いました。新しくバーコードを張り付けたり、分かりやすい十進分類の表示もつくったりしました。

■新しい図書館について今後の課題、目標、予定等

夏休みが終わり、借りていた本を児童が返却した後に蔵書点検を行い、貸出をしていなかった「調べもののへや」の本も貸出可能にします。

10月に、リニューアルガイダンスとして、池上図書館職員が学校図書館の利用についてのオリエンテーションを全学級順番に行う予定です。

新しい学校図書館は2階の低学年のフロアにあり、1年生の教室のすぐ隣です。これまで特に低学年の児童は3階にある調べ学習の部屋はほとんど利用することができませんでしたが、今後は学校にもいろいろな種類の本があることを知っていくでしょう。

低学年の児童が教室と同じフロアの図書館にやってきて、5年生、6年生の図書委員の児童と読書をとおした交流の機会も増えていくようになることを期待しています。

【中・高校生等の取組事例】

生徒が集まる図書館へ ～児童文学評論家赤木かん子氏プロデュース 板橋区立志村第二中学校 学校図書館リニューアル事例～

■リニューアル前の学校図書館の様子

板橋区立志村第二中学校は学校を改修したばかりで、図書館も綺麗で明るい場所です。図書館では、以前から本を見せることを念頭においていましたが、蔵書については文学が多く、自然科学が少なく、どのように生徒にアピールしたら良いかということが課題でした。

以前から生徒がよく利用する図書館で、昼休みに平均 20 人くらいの生徒が訪れていました。リニューアル後は平均 30 人くらいと、より多くの生徒が訪れるようになりました。

■図書館リニューアルの経緯・作業

校長が児童文学評論家の赤木かん子氏と親交があり、氏が学校図書館の改装に協力する事業を行い、非常に魅力的な学校図書館を作っていたことから、リニューアルのプロデュースをお願いしました。

平成 27 年 6 月に赤木氏ご自身が数回来校し、学校図書館の現状や所蔵資料を把握した上で具体的な構成を検討して下さり、氏の指示のもと、7 月の 2 日間で集中的にリニューアル作業を実施しました。

カウンターや机等の位置の移動や本の配置の変更、廊下の壁紙の張り替え、飾りつけなどのリニューアル作業を行いました。

■新しい図書館の概要

リニューアルに伴い漫画も増やしました。漫画にも生徒に読んで欲しいと思える作品があり、赤木氏からも今の子供達の心に沿うものもあるのだと説明も受けました。



コーナーになっています。

また、このコーナーの前には漫画を載せたブックトラックを配置し、じゅうたん敷のスペースにぬいぐるみを置くなどして、リラックスして本が読めるようになっています。

自然科学の本が少なくあまり利用されていないという課題については、漫画の近くの目立つ場所に、なるべく本の表紙を見せるように配架し、小物などを一緒に置くことで楽しい空間としました。今はビジュアル的にわかりやすいものを中心にそろえ、生徒達もよく利用する



他の分野についてもあまり利用されない古い本や全集などは本棚からはずしてスペースをつくり、できるだけ表紙を見せて生徒達にアピールするように配架しました。

貸出用のカウンターは前に出し、その奥に調べもののためのコーナーをつくり、図書委員だけでなくほかの生徒が出入りできるようにしました。このコーナーには調べ学習紙芝居シリーズという、報告書の書き方や百科事典のひき方などがわかる紙芝居も置いており、生徒同士で読み聞かせすることも行われています。この紙芝居はこの日も生徒が友達同士で読み合っていました。貸出用のカウンターの椅子には「カエル司書」が置かれ、生徒たちの人気者となっています。



■協力体制

リニューアル作業を行った2日間は教員やPTA、地域の図書館職員、地域のボランティアの方々、部活動のために当校していた生徒達が作業を行いました。また、赤木氏のホームページでもお手伝いしていただける方を募っていただき、他県の学校から応援に来て下さった方々や他の区市町村から後学のためにと来て下さった方なども一緒に協力しての作業となりました。

その後も赤木氏が来校し、時事的な展示などを考えていただいたりもしています。

日常の図書館運営は、図書館担当教諭のほかに、週に一度学校司書が来校して、図書委員と共に行っています。生徒が図書館を自由に使える開館時間は、毎日の昼休みと学校司書がいる金曜日の放課後です。

■新しい図書館について今後の課題、目標等

板橋区立志村第二中学校では、学校経営方針に「全教職員が読書に励み、年間 30 冊以上読み、読書から得た知識や技能や感動を生徒に紹介する」と定めています。生徒についても、3 年間で目標を立て、記録をつけていくという取組の導入も検討しています。

また、読書は悩みの解決策や癒されたいという気持ちを受け留めるものの一つともなるため、そうした本も図書館に置いていきたいと考えています。



ヤングアダルト向け情報紙『CATCH』 ～西東京市図書館の中高生読書への取組～

西東京市図書館では、昭和63年8月から、中学生・高校生世代のヤングアダルト向けに、年3回、情報紙『CATCH』（A5判・8ページ）を発行し、読書案内や、情報交換の場を提供しています。

平成23年度から中高生世代と図書館職員との共同編集を行っています。

中高生世代が編集者となることで、同世代が興味を持ちやすい図書を取り上げ、親しみやすいイラストが掲載されるようになりました。中高生世代に一層共感を持ってもらえるようになり、図書館利用の促進を図っています。

また、編集会議で中高生世代の声を図書館員が直接聞くことで、中高生世代の読書に関する情報を得ることができるようになり、図書館ヤングアダルトコーナーの資料充実に繋がっています。

『CATCH』は図書館ホームページの「10代のためのYA（ヤングアダルト）のページ」にも掲載していますので、来館をしなくても閲覧できるようになっています。

ホームページでは、誌面掲載図書の一覧も作成しており、通覧することもできます。

また、図書館のYAコーナーには「YA!YA!（ヤイヤイ）ペーパー」というB5判の投稿用紙を設置しています。中高生世代が自由におすすめ本やイラスト、今考えていること等を投稿できるようになっており、それをファイリングして閲覧できるようにしています。さらに、読んだ人が意見や絵を追加できるようになっており、図書館での交流の場となっています。

この投稿の中から『CATCH』に記事が掲載されることもあり、情報誌と投稿を連動させることで、中高生世代が一層楽しみを持つことができる仕組みとしています。



都立多摩図書館による高校生への絵本の読み聞かせ講座

～都立世田谷総合高等学校 家庭科

「子どもの発達と保育」選択授業での実施例～

都立多摩図書館では中学生・高校生を対象に、読み聞かせのノウハウや乳幼児や小学生への読み聞かせにおすすめの絵本を紹介した『読み聞かせに挑戦！ 中学生・高校生編』を作成しています。

中学生、高校生の皆さんは、奉仕や職場体験で読み聞かせをする時などに、この冊子を活用することができます。

また、学校からの依頼を受けて、都立多摩図書館の職員が家庭科の保育の選択授業で、この冊子をテキストとして、実際に高校生へ読み聞かせ講座を行っています。

今回は都立世田谷総合高等学校での講座の内容をご紹介します。

■準備

会場は学校図書館。世田谷総合高等学校の学校図書館は廊下側にもガラス張りの部分があって室内が見られる、明るく開放的な図書館です。保育の選択授業があるので絵本のコーナーもあります。今回の受講者は2年生の「子どもの発達と保育Ⅰ」の選択者16人です。

講座で使用する絵本は、冊子で紹介している絵本を中心に用意します。多摩図書館から持参するほか、学校図書館の絵本もお借りして、できるだけ1タイトル2冊あるように揃えておきます。

生徒が来る前に、机を動かして、用意した絵本を、生徒から見やすいように机の上に立てて並べて準備します。

■読み聞かせとは・絵本のレクチャー

講座は2時限使用して実施します。1時限目はおはなし会や読み聞かせについて、そして絵本についてのレクチャーを行います。

まず、実際に多摩図書館で行っているおはなし会の様子について写真を見せながら、読み聞かせが子供にとって絵本そのものの楽しみとともに、読んでくれる人の気持ちも受けとめるものであることなどを説明します。

生徒たちがおはなし会の様子がイメージできるようになったところで、絵本についてのレクチャーを行います。1・2歳向きの単純なパターンを楽しむいわゆる赤ちゃん絵本から、物語に反応するようになる3・4歳向きの絵本、主人公などの気持ちがわかるようになってくる5・6歳向きの絵本と紹介していき、年齢によって選ぶ本が変わっていくということを説明します。



また、絵本は絵を読むことが大事であり、絵を見ないとわからない部分があることや、良い絵本は絵を見るだけで話の内容を理解できるということなどを、おすすめ本の例をあげ、講師の実演を交えながら説明します。実演の時間は特に生徒も集中しているのがわかります。

間の休み時間には、並べてある絵本を見に来る生徒が沢山います。「これ知ってる」「うちにも、沢山絵本があるよ」「絵が面白いね」「感情こめて読めるのがいいかなあ」と楽しそうに2時限目に読み聞かせる絵本を選んでいました。

■読み聞かせのポイント・生徒の実演

2時限目は、読み聞かせの基本的なポイントについて、大勢の子どもの前で読み聞かせを行う際の姿勢や、絵の見せ方、本の持ち方、声の出し方や読む速さなどを説明します。

説明後は各自が読む本を選び、2グループに分かれて、生徒が一人ずつ他の生徒に読み聞かせの実演を行ってみます。1人3~4分で全員が行います。

1人が終わるごとに短く講評を行いながら進めます。声の大きさや本の持ち方などのアドバイスを交えながら、「どうしてこの本を選んだの？」と質問することで、選書をした動機をもう一度確認してもらいます。そして「登場人物の気持ちに沿って読んでいるのが声の違いからわかったよ。」「持ち方がしっかりしていて見やすかった。」「会話のメリハリがあって良かった。」など、褒めて伸ばすのが基本です。経験があつて慣れている生徒、初め



て人前で読み聞かせを行うことに緊張する生徒。少し恥ずかしそうにしながらも楽しそうに読んでいきます。

大勢の前での読み聞かせは、本の絵を見せながら読むことや、ひらがなばかりで読みにくいということなどから、実際には事前に練習した上で行う必要があります。初見で読み聞かせを行うことは困難なことです。しかし、説明を聞いて実際にやってみることで、そういった難しい部分があることへの気づきとなり、読み聞かせの練習をするポイントを掴むことにも繋がります。

■効果

都立世田谷総合高等学校では保育の実習で読み聞かせを行ったりすることもあるほか、ボランティア活動として近隣の保育園と連携し、園児と遊んだり、読み聞かせを行うこともあります。

誰かのために、また、沢山の人の前で絵本を読むためには、相手に合わせて本を選んだり、自分がどんな絵本なら内容に共感して相手に伝えることができるのか、何度も読んで絵本の内容やポイントを深く考えたりすることが必要になります。生徒たちが読み聞かせを行うことは、読んでもらう幼い子供達が絵本を楽しいものと身近に感じることができるほか、読む側の読書経験を広げることにも繋がります。

【特別な支援を必要とする児童・生徒の取組事例】

発達障害と読書

～葛飾区立宝木塚小学校しょうぶ学級の取組～

葛飾区立宝木塚小学校には、情緒障害等通級指導学級「しょうぶ学級」が併設されています。これまで葛飾区では、知的な課題の無い、発達障害の児童に対し、区内7か所の小学校に設置した学級に週に1日通って指導を受ける、情緒障害等通級指導学級で指導をおこなってきました。

宝木塚小学校しょうぶ学級には18校から31名の児童が通い、運動や人間関係の形成、コミュニケーションなどの改善を目的とした個別指導・小集団活動での自立活動の指導を受けています。

しょうぶ学級では平成26・27年度、都の指定を受けて「読み書きに障害のある児童・生徒の指導法の普及・啓発」についての研究を進めています。

個別学習の時間の中で、導入の時間に絵本の読み聞かせを行ったり、児童自身が音読したりすることもあります。こうした取組は学習前に気持ちを落ち着かせる効果があるほか、文章の読み聞かせや自分で読むことを通じて、どんな内容だったか、どんな登場人物が出てくるかなどを読み取れているか、また、文字がどのくらい読めているかの実態把握にもなります。

さらに、読書に関して家庭への啓発にも力を入れており、保護者の方に、子供と一緒に本を見て、一緒に読むことを薦めています。学習面で遅れが出ている子供にとって、「勉強」の機会とは別に絵本を読んだりカルタをしたりと、楽しみながら苦手意識を克服し、自信を付けていくことも大切だと考えています。

また、通常の学級でも毎週金曜日の朝読書やPTAによる読み聞かせなど、積極的な読書活動を行い、読解力や表現力の育成に努めています。

平成28年度からは、区内全ての小学校内で、通級をせずに必要な指導を受けられる特別支援教室の設置を予定しています。

発達障害の児童・生徒の読書活動の支援としての指導事例

学習に必要な基礎的な能力のうち、一つないし複数の特定の能力についてなかなか習得できなかったり、うまく発揮することができなかったりする児童・生徒がいます。このような障害の特性を理解して読書活動の指導や支援を行う必要があります。

アセスメントの実施

WISC-III及び「文字の読み書きチェックリスト」

- ◆体を使ったり、教材を操作したり、動画を見たりする課題の方が好きである。
- ◆一般常識的なことはよく知っている。(理解)
- ◆言語の上位概念の形成が困難。(類似)
- ◆単語のまとまりとして読むことが難しい。

単語や文をなめらかに読むことが難しい傾向があります。

★得意なことを生かして文章を読み、内容を理解しよう！
・教材の工夫を通して主体的、意欲的に取り組めるようにしましょう。

教科書の挿絵を活用したワークシートの工夫



「きつねのおしゃくさま」

登場人物を順番に並べました。



イメージ図の上で、登場人物の絵カードを動かして話の流れをつかみました。

板書やICT機器の活用の工夫

「さけがおおきくなるまで」



時間を軸にした表を作成して、時間の経過とともに鮭がどこに移動したかを整理しました。



インターネットで鮭について調べました。動画の情報があるなど、説明文の内容理解に役立ちました。

挿絵の様子を短文で書くことで、文章全体の内容を捉えられるようにしました。



さけの稚魚の長さを測りながら粘土で作ってみました。実際の大きさがよく分かりました。



◆視覚化された情報を見つけることで、対象児童が意欲的に取り組むことができました。

指導の成果

★本児の心に残ったところを手掛かりに読み取りをしたので、興味・関心をもって取り組むことができました。



島しょ初！子供読書活動推進計画策定 ～八丈町立図書館の取組～

八丈町は平成 25 年 3 月、八丈町のすべての子供たちが自主的に読書活動を行うことができるよう、そして健やかに成長することを目的として、都内の島しょ部で初めて「子供読書活動推進計画」（平成 25 年度から平成 27 年度までの 3 か年計画）を策定しました。

■八丈町の読書活動

八丈町立図書館では、離島の図書館という条件の下で、八丈島子ども文庫連絡会が各地域で行うおはなし会への支援や小学校への町立図書館ガイダンスなど、地域や学校と連携し、5つの地区からなる全町の子供に、読書に触れる機会を創出しています。

八丈町では、図書館から遠い地域の子供が参加できるように、昭和 40 年代から各文庫が地域でおはなし会を行ってきました。現在は、各文庫が開催日を調整し、おはなし会で使用する絵本の貸し出しなどを行っています。

年に 1 回開催される「幼児と小学生のための文庫まつり」などでは会場や機材の貸出、講演料の予算化などを行っています。（文末に注）

また、平成 20 年度から図書館内で行っているおはなし会は、職員のほか、八丈島子ども文庫連絡会メンバーなど、地域全体で協力して行っています。

乳幼児の読書支援に関しては、福祉健康課、町立八丈病院、民生委員、ボランティアとも連携し、平成 26 年から 3～4 か月健診時にブックスタート事業を行っています。図書館職員が保護者にブックスタートの意義を説明し、ブックスタート・ボランティアが読み聞かせを行った上で、絵本をプレゼントしています。ブックスタート事業により、読み聞かせや図書館、本について保護者の関心が高まり、乳幼児を連れた来館者も徐々に増加しています。

さらに、新小学 1 年生を対象として、町立図書館利用ガイダンスを実施しています。学校と調整の上、町立小学校全 3 校に出向き、利用方法の説明、読み聞かせ等を行い、利用カードの申込書を渡して図書館の利用も促しています。

小学 2 年生の授業の一環として、町立図書館見学が行われることもあります。（平成 27 年度 2 校実施。2 月 24 日現在）

■子供読書活動推進計画策定

八丈町で子供読書活動推進計画策定のきっかけとなったのは、図書館の新しい展開のために他の自治体を視察した際、計画をはじめ様々な取組について話を聞くことができたことです。子供の読書を推進するにあたり、まずは運営面の充実が大切であると考えて計画を策定することとなりました。

計画策定にあたっては、図書館職員、図書館主管課の係長が事務局となり、教育長（図書館館長）、教育課課長、企画財政課長、小・中学校教員、さらに公募町民、学識経験者が委員として参加することにより、様々な立場から意見を頂き検討を行いました。

計画では、これまで町で読書活動の推進として行われてきたことを整理するとともに、ブックスタートや新小学1年生への図書館利用ガイダンスなど新しい取組を盛り込み、事業を行ってきました。

現在、八丈町立図書館では次の段階に向けて、第一次計画の評価を行うと共に第二次子供読書活動推進計画の策定準備中です。



注：文庫まつりについて

- ・「幼児と小学生のための文庫まつり」「大人のための子どもの本の学校」の2種類。
- ・いずれも主催は八丈町教育委員会、八丈島子ども文庫連絡会。
- ・それぞれ隔年で開催している。（ここ2、3年は子ども向けの「文庫まつり」を続けて開催。）

分担

八丈島子ども文庫連絡会：どちらを開催するか決定、講師との交渉、日程・内容決定。

講師からの要望に応え、機器などを準備。

ポスター、ちらしの作成、配布。

講師来島時の対応。

八丈町立図書館：

会場、機材の予約、提供。内容によっては資料等の提供。

広報（町の広報誌、防災無線、ポスター・ちらしの印刷）

講演料支払。

【東京都子供読書活動推進計画関連ホームページ案内】

**東京都子供読書活動推進計画
～未来を支える読書～**

<http://kodomo-dokusho.metro.tokyo.jp/>

都立図書館

<http://www.library.metro.tokyo.jp/>

都立図書館児童青少年資料サービスのご案内

<http://www.library.metro.tokyo.jp/tabid/3855/Default.aspx>

東京都教育委員会

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>